

2011/02/28 10:35

○小泉やすお 副委員長

前回に引き続き、一般会計歳出第1款議会費、第2款総務費、第3款生活経済費、第8款職員費に対する民主党杉並区議団の質疑を続行いたします。

それでは、増田裕一委員、質問項目をお願いいたします。

◆増田裕一 委員

商店街振興について、それと時間があれば、防災カメラについて、区立集会施設の利用状況について。使用する資料は、整理番号329番、330番、332番です。

それでは早速、商店街振興についてお尋ねします。

まず、平成20年度において商店街振興に関連する決算額はいかがでしょうか。

◎産業経済課長

平成20年度、1億6,800万円余でございます。

◆増田裕一 委員

それでは、本区における商店街振興策の概要の例示をお願いします。

◎産業経済課長

商店街の振興策といたしましては、イベント助成、活性化助成がございます。そのほか千客万来事業、環境整備事業、観光事業というふうになってございます。

◆増田裕一 委員

区民アンケートにもございましたけれども、商店街に必要性を感じておられる区民の方もかなりいらっしゃるんですね。区として商店街に期待する役割、機能というのはどのようなものでしょうか。

◎産業経済課長

商店街は地域を構成する重要な要素というふうに考えてございまして、商店街の元気は地域の元気につながるというふうに考えてございます。

◆増田裕一 委員

それでは、今現在展開されている商店街振興策について、期待する機能を実現させるために十分なものかどうか、総括をお尋ねします。

◎産業経済課長

これまで、補助金でありますとか支援という形で進めてまいりましたが、大変厳しい経済状況の中で、各個店、それから商店街等はそれぞれ独自に努力をされているところでございますが、今後はそういった商店街、それから地域を巻き込んだ力を結集して、まちおこし、地域振興に進めていく必要があろうかと思えます。その辺のところは課題にあろうかと思えます。

◆増田裕一 委員

それでは懸案の産業振興計画について、今現在の検討状況、進捗状況はいかがでしょうか。

◎産業経済課長

現在内部で調整や検討をしているところでございますが、今般の経済動向の大きな変化の中で、再度見直しといたしますか、点検を行っているところでございます。

◆増田裕一 委員

検討と点検という状況の中で、私自身も地域の中で活動しながら肌感覚で思いますのは、商店街にしても、昨日他の委員からもご提言があったような地域振興にいたしましても、団体単体ではなかなか運動自体を機能させていくというのが難しい状況になりつつあるんじゃないかなというふうに思うわけなんです。今後の商店街振興策につきましても、商店街ばかりではなくて、さまざまな団体を巻き込んだ地域振興という広い視点での施策の展開が必要というふうに私も考えております。

地域団体の新たな受け皿として、現存団体の統一というか、統合というか、そういったことを視野に含めて、より横断的な組織、例えば新宿区における地区協議会のような受け皿というものを中長期的な課題として取り組むべきであるというふうに考えますが、区としての見解はいかがでしょう。

◎産業経済課長

現在、地域、商店街の中では、ご指摘の点を踏まえて、各商店街が連携をしてチームワークよくまちの魅力を高めていこうという取り組みを進めているところでございます。そういったことを区としても支援をしてみたいというふうに思っております。

◆増田裕一 委員

地域振興という視点からいかがでしょうか。

◎地域課長

現在区民センターで活動しているいわゆる運協でございますけれども、今後、地域の中のほかのいろいろな団体と協働事業なりをする中で、地域の中のいろいろな団体のネットワークをつくっていこうという仕組みづくりを今年度から始めているところでございます。

◆増田裕一 委員

やはり今ある団体との連携協力というのは一朝一夕にできるものではございませんし、ただ、しかしながら、昨日もご指摘がありましたように、今回のまちの絆向上事業に関して、私が住んでおる地域でも、あの事業をきっかけに、町会だけじゃなくて商店街、さまざまな地域の団体が寄り添って1つの企画というものを形成していった、つくり上げていったというような経緯がございますので、ぜひそこら辺は、産業経済課、地域課、そういう縦割りの枠組みだけではなくて、互いに連携をしながら取り組んでいただきたいというふうに思うわけでございます。

それでは、次の質問といたしまして、食肉、鮮魚、青果品といったいわゆる生鮮三品、商店街の中核となる業種であるというふうに考えております。そこでお尋ねしたいのは、昭和63年、平成11年、14年、16年、19年にかけての店舗数と売上高の推移をお尋ねします。

◎産業経済課長

生鮮三品を取り扱う専門店の数でございますが、昭和63年が700店、11年が426店、14年が338店、16年が306店、平成19年が247店となっております。

売上高でございますが、昭和63年312億余、平成11年213億余、平成14年190億、平成16年167億、平成19年133億というふうになってございます。

◆増田裕一 委員

先細りなんですよ。産業経済課としては、こちら辺の経緯をどのようにとらえていらっしゃるのでしょうか。

◎産業経済課長

各商店街でこういった生鮮三品を扱う店舗が徐々に減ってきているということをお伺いしております、とりわけ鮮魚商のほうの撤退から始まっていくということで聞いておりますが、バランスよくお買い物回りがしていただけるようなお店が配置されているということが商店街の力にも結びつくと思っておりますので、こういったものがなくなっていくことについては憂慮しているというところでございます。

◆増田裕一 委員

その減少していつている原因というのはどのようにとらえていらっしゃるのでしょうか。

◎産業経済課長

鮮魚につきましては、品ぞろえといいますか、鮮度の保持という形での設備等が必要でございますし、また、その他の周辺のスーパーでの買い物というような形での利便性ということからも、地元を離れて大きなところへ流れていく部分もあろうかというふうに思われます。

◆増田裕一 委員

私も近所の八百屋さんですとか魚屋さんで商品を買う機会もあるんですけども、品物の品質というか、物はやはり違うんですよ。そういった意味でも、こうした生鮮三品の小売業というのを大切にしていかなきゃいけないかなというふうにも思うわけなんです。商店街そのものを振興していくために支援していかなければいけないと思うんですが、本区において生鮮三品を意識した振興策というのは、過去も、そして今後もお考えかどうか。

◎産業経済課長

特にこの三品ということではございませんが、各商店街において、なくなっていくような店舗の対策をご検討されておりますので、そういったことについてアドバイザー等の支援を行っているところでございます。

◆増田裕一 委員

個店強化という大きな枠組みでということであると思うんですね。私なんかは商店街の核である生鮮三品、その個別の

店舗を見てまいりますと、食品の鮮度ですとかおいしさですとかを見分けるために目ききの能力、才能というものが必要なのかなというふうに思うわけなんですね。こうした能力、才能というものを適正に評価して、広く周知できるような仕組み、例えば技能功労者表彰の生鮮三品版のような仕組みがあれば、生鮮三品を販売する小売店の価値が区民の皆様にも再評価されるのではないかなというふうに考えるのですが、区としての見解はいかがでしょうか。

◎産業経済課長

現在、表彰制度の中で技能功労者表彰がございますが、そちらについては、小売店のところの個店のほうは対象とされていないのが現状でございます。今肉をさばくような技術というようなことで例示をされてございますので、今後、審議会において議論していただきたいなというふうに思っております。

◆増田裕一 委員

今後もそういったところで意識しながら、商店街の核というものを見据えて取り組んでいただきたいと思うんですが、また、昨日他の委員からもご提言がありましたけれども、商工相談に専門家を起用するということは大変結構なことであるというふうに私もとらえております。

しかしながら、加えて申し上げるとするならば、経営相談ですとか企業支援の視点から、横のつながりを意識した、個別ではない専門家チームの結成を視野に入れてはいかがかなというふうに考えております。例えば経営というものであれば、税務であれば税理士、労務であれば社労士、特許申請であれば弁理士、もちろん販促プロモーションであれば中小企業診断士といったように、専門家が個別ではなくチームとして互いの専門性を生かしながら、その知識というものをアドバイスしていくことによって、より広範かつ柔軟な支援、中小企業に対する支援というものを行えるのではないかと考えますが、区のご所見をお尋ねします。

◎産業経済課長

各個店、商店街ではさまざまな課題を抱えていようかと思えます。現在区で行っておりますアドバイザーの派遣については、中小企業診断士等の専門家等を派遣しているところでございます。その中で課題を明らかにし、今後につなげていただくような働きかけをしてまいりたいと思っております。

◆増田裕一 委員

専門家の方々も、ぜひそういった知識というものを役立てていただきたいといったような申し出もございますので、ぜひ杉並区のほうでも活用していただければというふうに思います。

私からの質問を終了させていただきます。